



久しぶりの歌声

なぜかくも心に響く

「祈り」は神との対話と言われるが、「祈りの人たち・カルメリフト」を久しぶりに訪れる。

私たちが20年以上親しくしている女子観想修道院が山口市仁保のインテルサット近くに建設されたのは1979年である。



鉄格子でしきられる

存在になった。それを知った友人夫妻が私たちのために車で連れて行ってくれた。

私たちが到着すると院長は面会室の格子戸を開け待っておられた。

面会室に入り、院長の両手を握ると涙が止まらなかった。なぜこんなにも涙が出たのか私にもよく解からない。心が洗われるような気持ちになったのだ。

昼食をご馳走になり、午後1時からは歌の祈りに参加させてもらおう。

私がカルメル会を知り、ラジオドキュメンタリー番組「祈りの人たち・15人のカルメリット」を製作した時は人数も多かった。残念ながら神からの呼びかけにこたえ、カルメリットの道を歩む人は世界的に少なくなり、山口修道院は11人の共同体になった。



面会室のカルメル会院長

でもおすすすめ出来る。なお、このスリッパは修道院でも求められませんが、どうしてもほしいういう人は近くの道の駅でも買うことが出来る。我家は夏冬を来るとして愛用している。

私たちがわざわざ山口のカルメル会まで連れていってくださった夫婦は帰りの車の中でカルメル会について

「カルメル会のシスターの明るさ。何もない豊かさ(物質中心ではない)ということだろ(う)。カルメル会のシスターを色で表現すれば、清純の白です」と答えた。とにかく初めてのカルメル会訪問でたくさん感動を受けたという。一緒にカルメル会を訪れることが出来て本当に良かった。

今回、お邪魔したカルメル会に電話すると、受付のシスターは「院長はあれからすぐ10日間の黙想です。」という。帰宅して夜寝れないので、カルメル会の祈りについて考えた。

祈りは祭壇にひざまづいてするものではなく、生活そのものが祈りだと思っ(た)。

カルメル会までいか(り)だと思っ(た)。

豊かだ。